

「分からないことだらけ」に答えます!

新連載

# 忽那先生がズバリと解説! ICTのお悩み相談所

忽那賢志

大阪大学医学部附属病院 感染制御部 部長

インфекションコントロールの読者の皆さん、こんにちは。大阪大学医学部附属病院の忽那です。この連載では、月刊誌「インフェクションコントロール」の読者の皆さまから寄せられた感染症に関する質問に、私「くつ王」が的確に答えたり、場合によってはうまくごまかして、お茶を濁したりするコーナーです。圧倒的にお茶を濁す回が多くなりそうな予感が今からしていますが、とりあえず字数を稼げれば私の勝ちですッ!さて、第1回目から質の高いご質問をいただいております。

Q



コロナ禍を経て日本のAMRの現状と課題はどうなっていますか? ICTとして取り組むべきことは何ですか?

もうちょっと様子を見よう!

「あっ、コイツ、いきなりお茶を濁すつもりだな」と思われたかもしれません。ちょっと待ってください。もう少しだけ読み進めてみてください。その予感が確信に変わりますから。

A



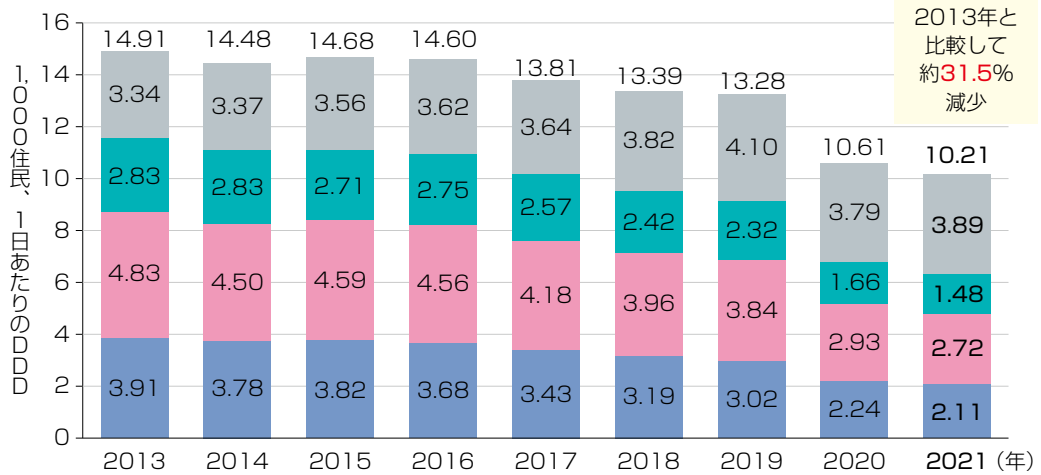
## コロナ禍の抗菌薬の使用量

さて、コロナ禍によって、抗菌薬の使用量がどうなっているのかご存じでしょうか。

図<sup>1)</sup>は「国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンター」が2022年4月に発表したデータから引用したものです。

2021年の抗菌薬販売量は、2013年のそれと比べると、なんと31.5%も減少しています!

思い返せば2016年…、日本は薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランとして2020年までに抗菌薬使用量を2013年の3分の2に減らすという目標を掲げたのでした<sup>2)</sup>。「31.5%減」っていうと、もうほぼほぼ達成していますね。日本の抗菌薬適正使用はこんなにも着実に進んでいるのだッ!!



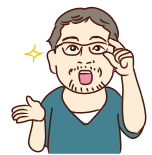
■ : 内服セファロスポリン ■ : 内服マクロライド ■ : 内服フルオロキノロン  
 ■ : 注射+内服のセファロスポリン、マクロライド、フルオロキノロン以外

図1 2013~2021年までの全国抗菌薬販売量推移

(文献1より引用)

## 結論

コロナ禍における日本の AMR の状況はイケイケである!



ということで、ありがとうございました。  
 次回の連載をお楽しみに!

了

## 抗菌薬使用量減少の真の要因

ってことではないですよ。

賢明な読者の皆さまは「いやいやそんなことはない」と思って、先へ読み進めていただいたことでしょう。

さすがです。ガーサスです。サスガーです。

そうです。抗菌薬の販売量が減っていることは、必ずしも抗菌薬適正使用が進んでいることを意味しません。いや、進んでいるのかもしれません、それとは別の要因がおそらく影響しています。

ときに皆さんは、コロナ禍になってから風邪をひきましたか? ワイはひいていません。「風邪ひいて仕事休みたいなー」とは毎日思っていますが、ひかせてくれてません。

みなさんもそうではないでしょうか？ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行して以降、**手指衛生・マスク着用など感染対策が徹底されるようになり、世の中から感染症が極端に減っている**のです。

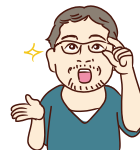
国立感染症研究所の「感染症発生動向調査 週報（IDWR）」を見てみましょう<sup>3)</sup>。COVID-19が出現した2020年以降、感染性胃腸炎も、咽頭結膜熱も、水痘も、伝染性紅斑も、流行性角結膜炎も、溶連菌性咽頭炎もめっちゃめっちゃ減っているのです。当然ながら、風邪も減っていると思われます。

つまり、抗菌薬の販売量が減っているのは、抗菌薬適正使用が進んだわけではなく、「世の中から感染症そのものが減っちゃってるから」、単に「**抗菌薬を使用すべきかどうか判断する事例が減っているだけ**」という可能性が高いと思われます。

ですので、抗菌薬適正使用が進んでいるかどうかについては、ほかの感染症が再びもう少し増えてきてから判断する必要があります。

## 結論

もうちょっと様子を見よう！



ということで、結論としては何も言っていない感じでお茶を濁しました。

こんな感じでチルい連載をやっていきたいと思います。

読者の皆さまにおかれましては、暖かい目で見守ってください。



## ウェブもみてね！

忽那先生の連載はインフェクションコントロールの専用ウェブサイトでも公開しています！**ウェブ限定記事**もあるので左記 QR コードからぜひご覧ください！



**ウェブ限定記事も！**

## 【引用・参考文献】

- 1) 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院. 全国抗菌薬販売量2021年調査データ報告書2022年4月22日公開（確定値）. [https://amrcrc.ncgm.go.jp/surveillance/020/file/Sales\\_2013-2021\\_report.pdf](https://amrcrc.ncgm.go.jp/surveillance/020/file/Sales_2013-2021_report.pdf)
- 2) 国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議. 薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン. <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000120769.pdf>
- 3) 国立感染症研究所. 感染症発生動向調査 週報（IDWR）. <https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>